

この日は、日曜日の午前中でもあり、一部のコースをジュニアのアルペン専用コースとして、一般スキー客が侵入できないようにしてトレーニングを行っていました。

なお、午後からはコースを一般スキーヤーにも開放し、事故防止などについてもしっかりと配慮されておりました。ここのスキー場では、日本ではまず見る事が出来ないシステムで、リフトが回っており、驚きました。

その状況とは、同線のゴンドラの搬器と高速リフトの搬器が交互に回っていることでした（日本ではありえない光景・・・）。

そのリフトに乗車後、ゴンドラ・リフト側の正面の斜面は、見た目たいしたことのない斜面に見えたのが滑ってみると、なんと最大斜度28度、平均24・5度の斜面が1100m以上。

この日のバーンは硬く、その手強い斜面を、翌日は10本以上滑りましたが、さすがに腰に「キッター！！」という感じでした。

また、ゲレンデの中間付近にはカフェ・ハウスがあり、一階はソフトドリンクやランチバイキングが用意され、さらに、二階には幼児の託児施設も完備されておりました。

ただ、ゲレンデ内のトイレはまだまだ整備が必要であり、今後の早急な課題の一つと感じているのは私だけでしょうか・・・

.....

山頂からの林間コースは、左右に分かれており、各コース4km以上で滑り降りて行くと、ゴンドラ山麓に辿り着きます。その山麓の付近のリフト券売り場では、午後からスキー場に来た人達が、長蛇の列でチケットを買い求めています。まさしく、日本のスキーブームと重ね合う懐かしい光景でした。

この近代化スキー場「山の空気スキー場」は、北海道でいうと富良野スキー場的規模かなと感じております。

一方、市内にも一箇所ローカルなスキー場があることを関係者から聞き、行ってみました。ゲレンデコースは960m、平均斜度14・5度の一枚バーンで、Tバーリフトが1基設置されています。コース幅の半分は、フリースタイルボー

ダー・スキーヤーのためのキッカー等の設備も用意されており、子供や若者が集まって練習しており、もう一方の半分のコースでは、多くの老若男女がスキーやボードを楽しんでおり、日本人好みの練習斜面と感じて滑ってきました。

今回の旅行では、天候にも恵まれ、毎晩顔見知りの関係者と飲み会に誘われ、サハリンのナイタースキーが出来なかったのが心残りです。

ロシア人からは、「サトウさんスキーはいつでもできるから、こうして我々と語り・飲むことの方がもっと大切である」との、彼らの勝手な解釈を通訳を通じて納得デス??・・・

サハリンのスキー旅行は、優雅で先進的なカナダ、ヨーロッパスキー旅行と比べ、まだまだ海外からの観光客を受け入れる様々な体制が整っていませんが、北海道民のアクティブなスキーヤーであれば、是非、隣国サハリンでスキーを滑ってみてはいかがでしょうか。



アルペンスキー学校校長と筆者

なお、北海道スキー指導者協会のHPにも、2011年3月からたびたびサハリン関連の記事を掲載しておりますので、見ておられない方がありましたら是非、ご覧ください。

特に、毎年3月にはアップされております。

稚内スキー連盟指導員会 副会長